

令和 7 年度 農業部会試験研究実績

1 農林作物の効果的な野生獣被害防除技術の確立

- (1) 県北部地域のサツマイモ圃場におけるイノシシによる被害実態及び圃場周辺の生息状況の把握（令和 7 年度～9 年度）
（農林総合研究センター暖地園芸研究所）

イノシシによる農作物の被害は、近年県北部地域へ拡大し、主要品目のサツマイモにおける被害の拡大が懸念される。サツマイモは収穫前の被害が多いとされるが、塊根が成熟していない時期でも被害に遭うリスクがある。被害時期の特定のため、本年度は、香取市及び成田市の現地圃場において、被害の発生及びセンサーカメラによるイノシシの行動調査を行ったほか、所内圃場においてイノシシによるサツマイモの食害痕及び摂食方法を特定した。現地圃場では、作付け前の 3～4 月にイノシシの侵入が確認されたが、電気柵による対策が行われた栽培期間中は侵入行動が減少することが明らかとなった。また、収穫直前の 10 月下旬から収穫を終える 11 月下旬にかけて、圃場周辺のイノシシの痕跡及び撮影される延べ頭数が増えることから、サツマイモの塊根の成熟に合わせて被害リスクが高まることが示唆された。全体の被害は軽微であったため、圃場周辺に別の餌環境があることが推察された。所内圃場では、サツマイモの短径に対し垂直に太い歯形が残ることやサツマイモを持ち去り摂食することが明らかとなった。引き続きデータを積み重ねて検証を行う予定である。

令和7年度 森林部会試験研究実績

1 農林作物の効果的な野生獣被害防除技術の確立

(2) シカ等の食害が広葉樹林の育成に及ぼす影響の把握及び食害の影響を受けにくい育成手法の解明（令和7年度～9年度）

（農林総合研究センター森林研究所）

広葉樹林の育成に及ぼす影響を明らかにするために、森林の造林方法（苗木植栽、天然更新）ごとに、天然更新地の実生・萌芽枝や広葉樹植栽樹種へのシカやキョン等の食害の実態、植生の状況等を調査した。天然更新の調査地は各林業事務所管内で8箇所、広葉樹植栽の調査地は中部・南部林業事務所管内で7箇所設置した。また、コストをかけずに台風被害林を天然更新により再生する調査地として、中部・南部林業事務所管内で3箇所設定した。調査地に出現する獣類を確認するために、すべての調査地にセンサーカメラを設置した。

天然更新調査地においては、伐採前に前生稚樹、林冠の空隙率等を調査した結果、空隙率が高いほど、下層植生の植被率が高くなる傾向がみられた。

広葉樹植栽調査地において、植生、獣害の発生状況等を調査した結果、調査地によって植栽時期や植栽樹種の差はあるものの、鴨川市、君津市の調査地におけるシカ・キョンによる被害率が高かった。また、調査地に植栽されたシカの不嗜好性植物として知られるシキミには被害が確認されなかった。

なお、昨年度の計画では、シカ不嗜好性植物の植栽および忌避剤の効果に関する調査についても令和7年度中に取り組む予定だったが、試験地の設定および植栽木の準備に時間を要したため、令和8年度より調査している。